

研究テーマ	[IV見方や感じ方を広げ、深めること] お互いに作品を批評し合い、尊重し合うとともに、見方や感じ方を深める鑑賞指導の在り方 ー中学3年生「オリジナルパッケージをつくろう」の実践を通してー
-------	---

つくば市立大穂中学校 教諭 青木 邦夫

1 研究テーマについて

平成24年度から実施される新学習指導要領の中で、「鑑賞の学習では、作品の見方や感じ方などを身に付け、作品に表現された世界を一層豊かに感じ取り、広げられるよう、意図的に体験を深めさせる必要がある。」（p23第2章美術科の目標及び内容）また、「制作の過程や完成段階などで、学級全体やグループなど形態を工夫して、一人一人が自分の思いや工夫したことなどを発表したり、他者のよさを認め合ったりして互いが学んだことを共有化する学習の機会を設けることが大切である。」（p82第4章指導計画の作成と内容の取扱い）と明記されている。

生徒は、完成した自分の作品、友達の作品をどのような目で見ているのであろうか。ともすれば、苦手な生徒は自分の作品を卑下して見ていることも多いだろう。そして、頑張っているのにそれを伝えることができなかつたり、伝わらなかつたりで、制作の意欲をなくしてしまう生徒も多くいるように授業を通して感じることも多い。そこで作品の表面的なうまいへたでなく、作品の鑑賞においては、様々な見方や感じ方があることを伝えるとともに、得意な生徒、苦手な生徒、ともに自他の作品のよさ、個性、頑張りや努力点等を認め合い、さらに制作の喜びが味わえるような「鑑賞会」を考えることで、互いを尊重し合える共感の態度や、さらに意欲的に授業に取り組もうとする姿勢を養いたいと考えた。

そして、支援の工夫について、次のような手立てをもとに指導したいと考えた。

①「がんばり度」を取り入れた振り返り表

作品完成後の「鑑賞会」では、まずはじめに自己評価を行う。

自己評価では、題名、工夫点、苦労点、作品のコンセプト、制作を終えての感想とともに、一番下の欄に「がんばり度」という評価欄を設けて、自分の作品への思い入れや、取り組みの反省を自己評価できるようにしたい。この「がんばり度」を取り入れることにより、普段から授業の中で目立ちにくい生徒や、あまり自分を語らない生徒についても、作品づくりにおいて、どのくらい一生懸命取り組んだかを把握し、賞賛する機会を増やすことができると考えた。

また、その自己評価を作品とともに鑑賞させることで、制作者の思いや作品に対する見方が広がるように配慮したいと考えた。

②友達のよさを発見できる相互評価表

友達の作品をお互いに鑑賞することは、作品の中の作者の心情や表現意図などと対話し、作品を通して人の考えや思いを理解し、自分の考えを幅広い視野から広げていくことができる、とても大切な活動である。そこで、今回の授業では、「感動カード」という名前のカードを用意して、「友達の作品に感動しよう。」ということで相互評価を行うことにしたい。

単に、作品を鑑賞し合い、感想を書くだけでは、俗にいう「いい作品」に注目が集まってしまう、それでは「よさを認め合う」ことは難しいと考え、教師側で見る観点を4項目用意し、できるだけたくさんの作品を、いろいろな観点から見るように配慮したい。今回の課題の観点は次の5項目を設定する。

- ・お店にあってもおかしくない感動作品
- ・創造性とアイデアに優れている作品
- ・努力が感じられる作品
- ・見る人を楽しませる作品
- ・上の観点以外で感動した作品

1つ目の観点は、いわゆる全体的に優れた優秀作品である。

2つ目の観点は、発想の豊かさを感じさせる作品にターゲットを絞れるようにした観点で、アイデアを優先した観点である。

3つ目の観点は、いわゆる努力賞である。作品づくりには、常に一生懸命取り組んでいるが、どうしても見栄えがしない生徒の作品や、普段意欲的でない生徒が、今回の課題では、とりわけ頑張った作品などを認めるために作った観点であり、作品づくりに対して、少しでも自信を持てるようにするためのものである。

4つ目の観点は、俗に言う“受ける”作品でユーモア賞と言える作品である。

5つ目の項目は、上の4つの項目に入らないが、どうしても気になる、何か訴えるものがあるような作品で、記入するかいないかは、生徒の自己判断とする。

記入については1～4項目については、1観点につき3名、合計12名の名前が書けるようにする。

このように、いろいろな視点で作品を鑑賞させる場を設定することにより、自分では考えつかないような、お互いの表現のよさや個性を認め共感できるようにしたい。

さらに、「感動カード」の一番下に、「友達の作品をみて、思ったことや次の課題に生かしていきたいこと」の項目を書き込めるスペースを用意して、お互いの作品を鑑賞した後記入させ、数名に発表させることで、他の生徒の感想や、作品の見方、考え、意欲等を共有できるようにしたいと考えた。

2 実践例

(1) 題材 オリジナルパッケージをつくろう

(2) 目標

- ・ 商業デザインに関心を持ち、積極的にアイデアを出し、自分らしく工夫した表現活動をしよ
とする。 (美術への関心・意欲・態度)
- ・ 題材の意味を理解し、機能と美の調和のとれたデザインや工芸の構想を総合的に練ることが
できる。 (発想や構想の能力)
- ・ 材料や素材を生かし、用具の特性を考えて配色や技法を工夫して、制作意図に基づいた、美し
く独創的な表現をすることができる。 (創造的な技能)
- ・ 作者の思いや工夫点等を感じ取るとともに、自他の作品のよさや美しさを味わうことができ
る。 (鑑賞の能力)

(3) 題材について

普段何気なく目にしていて、よく見ると消費者の視覚に訴えるさまざまな工夫がなされている。「包む」という行為は、一般的には商品の保存、輸送など便宜的な面が主であるが、日本では古来よりこの行為に特別な感情をもっていたといえる。そのなごりもあり現在、商品の包装は商品の多様化とともに、さらに多種多様になってきている。

今回の題材「オリジナルのパッケージをつくろう」は、素材が生徒の身近にあるものであり、興味をもちやすく、個性を生かして新しいものをつくりだしていく創造的な技能や、造形のおもしろさが味わえる表現活動と考えることができる。また、第3学年としての発達段階を考えても、商品決定や素材選び、組み立てなどに適度な難しさがある。さらに、週1時間の授業時数では、いろいろな領域を体験させにくい、この題材は、「描く活動」と「つくる活動」の双方を取り入れた表現活動である。

以上のような理由から今回の題材設定に至った。

本題材においては、生徒一人一人がオリジナルの商品をつくる楽しさを味わいながら、自分の思いや願いが表現できるようにしていきたい。その中で、よりよい作品作りに向けて生徒同士が

お互いにアドバイスし合いながら、学びを深めるとともに、互いの表現のよさや個性を認め尊重し合えるような手立てを考えていきたい。

(4) 指導計画

時間	学習活動	評価の観点			
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	パッケージの役割について知る。	商業デザインやパッケージの役割について理解し、関心を持つことができる。			いろいろな視点から、進んで参考作品などを鑑賞する。
2	商品名や形、配色について構想を練る。		主題を決め、自分の作ろうとする商品を考えながら、アイデアスケッチをすることができる。		
2	展開図を描き、試作をする。		パッケージの出来上がりの形を考えて展開図を描くことができる。	展開図をもとに、いろいろな材料を使いながら、ていねいに試作品を組み立てることができる。	
6	計画に沿ってパッケージの制作をする。	友達の表現に関心を持ち、意欲的に作品を作ろうとする。		材料や素材を生かしながら制作意図に基づいた表現をすることができる。	
1 本 時	鑑賞会を行う。				自分や友達の作品のよさや美しさ、表現意図などを感じることができる。

(5) 本時の学習

◇ねらい

自分や友達の作品を鑑賞し、そのよさや美しさを味わうことができる。

◇準備・資料

作品、ワークシート（作品自己評価カード、相互評価カード）

◇展 開

配時	学習活動・内容	学習形態	指導上の留意点 (◎評価 □テーマに対する支援)
3	1 本時の学習内容を知る 自分の作品や友達作品のよさをみつけながら鑑賞しよう	一 斉	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が目標をもって作品作りに取り組んだことを賞賛するとともに、本時のねらいや活動内容を分かり易く指示することで、意欲的に活動に入れるようにしたい。
10	2 自己評価をする。 (自分タイム) <ul style="list-style-type: none"> ・作品名 ・制作の意図(主題) ・工夫したところ ・苦労したところ ・制作を終えての感想 ・がんばり度 	一 斉	<ul style="list-style-type: none"> ・内容について具体的に説明することでスムーズに書き込めるよう配慮する。 ・「がんばり度」の記入については、作品の出来、不出来にかかわらず、自分がその作品制作においてどれだけ一生懸命取り組めたかを考えさせることで自分のがんばりを評価できるようにする。
25	3 相互評価をする。 ○グループで互いの作品について話し合う。 (グループタイム) ○全体での相互評価を行う。 (全体タイム) <ul style="list-style-type: none"> ・お店にあってもおかしくない感動作品 ・創造性とアイデアに優れている作品 ・努力が感じられる作品 ・見た人を楽しませる作品 	グループ	<p>□グループ内で、お互いの作品について思いや考えについて話し合いをさせることで、対象の見方や感じ方を広げられるようにしたい。</p>
		全 体	<p>□全体での相互評価においては、いろいろな観点を示すことで、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図などを感じ取り、共感しながら作品を鑑賞できるよう配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲のよい友達作品だけの鑑賞にらず、全員の作品を必ず鑑賞するように指示する。 ・ワークシートへの記入が進まない生徒には個別に援助する。 <p>◎自分や友達作品を鑑賞し、そのよさや美しさを味わうことができたか。(観察・ワークシート)</p>
12	4 本時のジャーナルを書き、聴き合う。 (振り返りタイム)	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャーナルを使い、各自授業の振り返りができるようにする。 ・ジャーナルには、友達作品を見ての感想や、次の課題に活かしていきたいことを中心に記入できるよう配慮する。 <p>□意図的に指名し、いろいろな気づきについて発表させることにより、生徒一人一人が精一杯取り組んでいること、それぞれによさや個性があることに気づかせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の取り組みに対して褒め讃えるとともに、次の課題を知らせることで、さらに意欲的に活動できるように支援する。

3 成果と課題

① 成果

自己評価に「がんばり度」という項目を入れたが、ほとんどの生徒がAにチェックを入れ、作品作りに一生懸命取り組んでいることがわかった。その自己評価カードを鑑賞会で作品とともに掲示した結果、普段、授業の中で目立ちにくい生徒や、あまり自分を語らない生徒についても、作品づくりにおいて、一生懸命取り組んでいることを生徒同士で確認することができた。また作品コンセプトなどを読むことで制作者の思いや作品に対する見方の変化が生徒同士の会話や、相互評価表の「友達の作品をみて、思ったことや次の課題に生かしていきたいこと」の書き込みから感じられた。

また、相互評価表で、教師側で見る観点を用意し、できるだけたくさんの作品を、いろいろな観点から見るができるよう配慮した結果、作品について、うまい下手だけではなく、いろいろな見方を知るとともに、生徒同士がお互いにいろいろな観点から作品を鑑賞し、見方を広げ作品を鑑賞している姿が多く見られた。また、自分では下手と思っている生徒が、友達の相互評価カードの「努力が感じられる作品」の項目に名前を見つけたとき、うれしそうな表情をするなど、お互いの作品のよさを認め合う場面が多くみられた。

② 課題

今回の課題では、ほとんどの生徒が意欲的に作品づくりに取り組んだことが自己評価表の「がんばり度」からわかった。しかし、その割には、満足感を味わった生徒は予想より少なかった。達成感や完成の喜びを味わうためには、意欲だけでなく、それなりに最低必要な技能を修得していなければならないことを強く感じた。そのために今後は、基礎的な技法などのスキル面の充実を図り、創意工夫を生かした多様な表現を可能にするための方策を考えていきたい。

次に、今回の実践研究では、「鑑賞会」の中で自己評価・相互評価を行い、作品の見方や感じ方を広げ深めることがねらいであったが、作品の見方は理解できたとしても、それが広がり深まったか、また、教師側で観点を決めたことが、生徒の作品の見方や感じ方を広げるために有効であったかといえは疑問が残る。どちらかといえば、生徒が認め合い、共感するための手だてとしての活動になってしまったようにも思える。作品に表現された世界を一層豊かに感じ取り、広げ深めさせるには、さらに様々な手だてを考える必要があると痛感した。今後さらに研修を深めていきたい。

ワークシート

作品自己評価カード

種類名: パッケージのデザイン	氏名
作品名: 工夫したところ	作品コンセプト
賞賛したところ	観る者に対する全体的な感想
評価尺度 A ⁺ A ⁺ A B ⁺ B ⁺ B C ⁺ C ⁺ C Z	
満足度 A ⁺ A ⁺ A B ⁺ B ⁺ B C ⁺ C ⁺ C Z	

感動カード

項目	制作者	感想	感心度
実際に買いたくなるようなきれいで美しい感動作品			
アイディアに優れている作品			
努力が感じられる作品			
見た人を楽しませる作品			
上の観点以外で感動した作品について記入しよう			
友達の作品をみて思ったことや次の課題に生かしていきたいこと			

活動の様子



完成作品

